平成28年度　江戸川区立瑞江第二中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・よく学び、よく考える人になろう（真理） ・責任を重んじ、よく働く人になろう（勤労） ・規律を守り、よく協力する人になろう（協和） ・よく工夫し、実行力に富む人になろう（創造）	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・全ての生徒の学ぶ権利を保障し、全ての生徒の可能性を伸ばす学校 ・「共に生きる」生徒　－友達と共に、先生と共に、地域・社会と共に－ ・全ての教職員が、教育の専門家として成長できる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞①「応用・活用の課題」の工夫や「コの字型机配置」などの授業改革②伝統継承週間の取組などの自主的な活動の発展③生活記録表を活用した生活習慣の改善 ④江戸川区不登校対策のモデル的実践⑤ESDの視点を取り入れたカリキュラムづくり ＜課題＞①確かな学力の定着と伸長（学びのある授業の追究、具体的な実践の共有、補充学習の工夫）②ESDの視点のカリキュラムの開発③特別の教科道徳、授業改善 ④人材育成⑤開校50周年行事		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
			取組指標	成果指標	取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
21世紀にふさわしい教育の推進	学校図書館活用の推進	図書館を活用した授業の充実	国語、数学において年間1回以上図書館を活用した授業を行う	全国学力調査B問題の正答率全国比…国語±0数学±0	A	A	○授業回数は年間1回以上を達成。都平均値＋1.2～1.7●図書館活用回数の増加	A	生徒アンケートにおいて総合的な評価が80%を超える良い評価がなされている。今後も校長の学校経営方針の具現化を全教職員で推進してもらいたい。	各教科、領域等で取り組んでいる新聞づくりの質の向上を図るために教員研修を実施する。
	ICTを活用した授業の推進	ICTを活用した協働学習等の授業の充実	社会科において年間6回以上のICTを活用した授業を行う	都学力調査社会においてA教科の内容の正答率都比＋1	A	B	○都平均値＋0.6 ●B読み解く力都平均値	B	都学力調査によればA教科の内容B読み解く力に関する内容共にあともう一息である。生徒の意欲を向上させる取組を継続してもらいたい。	校内研修においてICTの効果的な使用方法を検討する。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	小中連携を踏まえた児童生徒の円滑な接続の充実	小中交流授業公開、部活体験を年間1回実施。授業公開を年間5回実施。	全国学力調査「将来の夢、目標」の項目＋2	A	A	○全国平均値＋6.7 ●なだらかな接続を目指した伸ばしたい力の明確化	A	無関心な保護者もいる。PTA活動を通して保護者同士のつながりを強めたい。また、町会の行事などにも積極的な参加をするよう働きかけたい。	小中連携プログラムに基づいた授業改善を進める。
	オリパラ教育の推進	オリ・パラ教育を踏まえた3つの視点に関する取組の充実	ESDの視点をふまえた各行事における身に付けさせたい資質・能力の明確化	全国学力調査「人の役に立つ人間になりたい」の項目±0	A	A	○都平均値＋3.8 ●3年間を見通した計画的実施	A	学校の環境もよく、素直に生活している。各行事で身に付けさせたい力を明確にしながら今後も推進してもらいたい。	カリキュラム開発を全教員で行い、確実に実施する。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施等による、きめの細かい指導の徹底	補習教室を各学年年間35回以上実施する。	全国学力調査知識全国比…国語＋2.1数学＋0.5	A	A	○各学年年間35回以上実施 ●補習内容の再考	A	補習の対象者や補習をしたことによる生徒の満足度が生徒アンケートによりわかった。	個に応じた補習内容を再考し実施する。
	確かな学力の向上	チャレ問、ベーシック等を活用した国語、数学、英語の基礎基本の徹底	チャレ問年間1回、ベーシック年間2回の実施	結果を踏まえての個別指導を5回実施	A	A	○全国知識平均値比…国語＋2.1数学＋0.5●実施後の補習内容再考	A	生徒本人が将来何をやりたいのか自分で考えさせ、目標をもたせることにより学習意欲が向上する。子供との会話を増やし伸びる場所を見つけてやることが重要である。	チャレ問、ベーシックの活用時期を再検討するとともに結果を踏まえた補習を確実に実施する。
	運動意欲の向上	昼休みや体育の授業における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	補助運動の年間計画に沿った確実な実施・生活習慣改善週間・地域スポーツクラブと連携した体幹トレーニングの実施	生徒アンケートにおいて「自分の生活改善に取り組んだ」という回答70%	A	A	○生活改善に取り組んだ生徒80.9%●継続実施	A	体力が向上していることが数値データにより分かった。今後も総合的な取組を推進していただきたい。	年間3回（各2週間）の生活改善週間の記録を各学級指導に活かすとともに保護者にも伝える。
	教員の授業力向上	思考力・判断力・表現力等を育成する発展的な課題の質の向上	公開授業…年3回 全教員年1回の研究授業	都学力調査…国語±0 数学±0	A	B	○都学力調査区比…国語＋0.5数学-0.9●発展的な課題の設定方法の研究	B	教員と生徒の相性などの関係もあると思うが、先生方が指導力を向上しようと研修を進めている様子がよくわかった。	校内研修において発展的な課題の設定方法について研究を推進する。
相談体制健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	Q－U…年1回 不登校対策研修…年3回	不登校出現率5.9%以内 （各クラス平均2名以下）	A	A	○1年2.5%2年3.1%3年9.4% ●不登校対策支援データの活用	A	生徒アンケートにおいて相談できる先生がいるという回答が70%であった。担任一人で対応することなくチームで対応する取組を今後も継続してほしい。	不登校対策支援データについては個人用ファイルをつくり、全教員の指導に役立てる。
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	各行事における交流学習を実施	生徒アンケートにおいて「交流・共同学習に、互いに意欲的に取り組んでいる」という回答が70%	A	B	○生徒アンケート64.3% ●共同学習におけるマッチングの精度向上	B	生徒アンケートにおいて昨年度と比較すると交流・共同学習に意欲的に取り組めていない生徒の割合が減少していてよい。	マッチングの精度を向上させるために教員の協議の回数を増加させる。
	エンカレッジルームの活用推進	支援を必要とする児童生徒へのエンカレッジルームを活用しての支援の充実	教育相談部会…毎週1回実施、情報の共有	生徒アンケートにおいて「悩みを相談できる先生がいる」割合70%	A	A	○生徒アンケート97.6% ●支援データの蓄積	A	若手教員が増えて少し心配していたが、地域とも連携しながら充実した教育活動が行われていることが分かった。この結果に安心することなく今後も継続する努力をしてもらいたい。	教育相談部会の情報を確実に全教員に伝達するとともに支援データの管理を徹底する。